



## 平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成26年2月4日

上場会社名 攝津製油株式会社

上場取引所 東

コード番号 2611 URL <http://www.settsu-seivu.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 二ノ宮 義治

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 総務部長 (氏名) 山本 信秀

TEL 072-280-2650

四半期報告書提出予定日 平成26年2月12日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年3月期第3四半期の業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

#### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	7,264	0.8	329	9.0	339	8.5	205	15.3
25年3月期第3四半期	7,203	△3.1	302	△8.7	312	△8.1	178	0.4

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	16.87	—
25年3月期第3四半期	14.63	—

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期第3四半期	6,674	3,832	57.4	314.10
25年3月期	6,433	3,665	57.0	300.37

(参考)自己資本 26年3月期第3四半期 3,832百万円 25年3月期 3,665百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0.00	—	4.00	4.00
26年3月期	—	0.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	4.00	4.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成26年3月期の業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,750	2.8	420	20.6	430	19.0	270	22.8	22.12

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
 ② ①以外の会計方針の変更 : 有  
 ③ 会計上の見積りの変更 : 有  
 ④ 修正再表示 : 無

(注)第1四半期より減価償却方法の変更を行っており、「会計方針の変更を会計上の見積りの変更と区別することが困難な場合」に該当しております。詳細は、添付資料P.3「2.サマリー情報(注記事項)」に関する事項(2)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示をご覧ください。

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

26年3月期3Q	12,222,080 株	25年3月期	12,222,080 株
----------	--------------	--------	--------------

② 期末自己株式数

26年3月期3Q	19,017 株	25年3月期	18,016 株
----------	----------	--------	----------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年3月期3Q	12,203,674 株	25年3月期3Q	12,204,882 株
----------	--------------	----------	--------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、添付資料P.3「業績予想など将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想など将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	3
4. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、第2次安倍内閣の経済政策による好況感があるものの、為替や株式相場とも不安定な様相を呈しており、新興国経済の成長鈍化傾向や欧州経済も依然として回復の兆候がみえない等海外情勢への懸念もあり、先行きについては4月の消費税増税の影響も含めて、依然として不透明な状況で推移しております。

こうした経済環境のなかで当社は、化成品事業における安定的な事業収益を生み出す事業構造変革への取組み、油脂事業における適正な利益を確保できる体制の構築に注力し、さらに、工場におけるコスト競争力・購買力・生産技術力及び品質保証体制の強化などの経営基盤の安定・強化に引き続き取り組んでまいりました。

当第3四半期累計期間における業績は、売上高は、油脂事業は減少したものの、化成品事業は増加し、72億64百万円（前年同期比0.8%増）となりました。

また、利益面では、減価償却方法の変更による影響や原価低減効果等と売上高増加により、営業利益は3億29百万円（前年同期比9.0%増）となり、経常利益は3億39百万円（前年同期比8.5%増）、四半期純利益は2億5百万円（前年同期比15.3%増）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

(油脂事業)

当社の油脂事業は、精製受託、業務用斗缶販売、小瓶充填・小ロット精製から構成されています。

精製受託は、なたね油の受託量が減少したものの、既存取引先からのコーン油受託量が増加し、売上高は前年同期を上回りました。

業務用斗缶は、原材料価格が小刻みに変動し、価格改定が計画通り進まないなかで、可能な限り製品価格の是正に努めつつ、販売数量の確保にも注力し、売上高は前年同期を上回りました。

小瓶充填・小ロット精製は、自社プレミアムオイルの主力であるぶどう油は前年同期を上回りましたが、OEM品の受託が減少し、売上高は前年同期を下回りました。

以上の結果、油脂事業の売上高は35億44百万円で前年同期比1.3%減となりました。セグメント利益は2億16百万円で前年同期比2.7%減となりました。

(化成品事業)

当社の化成品事業は、自社業務品、OEM及び業務提携先OEMから構成されています。

自社業務品は、外食店、食品加工工場向けに中性洗剤、厨房機器用洗剤や除菌洗剤の拡販を行ってきました。当第3四半期累計期間においては、衛生管理として、ウイルスを対象とした商品が増加し、外食産業に貢献できる除菌洗剤及びフライヤー用洗剤も引き続き順調に推移したことにより、売上高は前年同期を上回りました。

OEMは、新規OEM先が獲得できたものの、既存の量販店や生協向けのハウスホールド製品の受託は前期に続き低迷し、会員販売向け製品受託も全般的に動きは悪く、売上高は前年同期を下回りました。

業務提携先OEMは、ケミカル関連商品は前年同期並であったものの、厨房用洗剤をはじめとする業務用洗剤、家庭用自動食器洗浄機用洗剤が好調に推移し、売上高は前年同期を上回りました。

以上の結果、化成品事業の売上高は34億28百万円で前年同期比3.3%増となりました。セグメント利益は5億14百万円で前年同期比6.0%増となりました。

(その他)

その他については、物流業務における流通加工業務が減少し、売上高は前年同期を下回りました。

以上の結果、その他の売上高は2億91百万円で前年同期比0.8%減となりました。セグメント利益は1億14百万円で前年同期比5.8%減となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期会計期間末の総資産合計は、66億74百万円となり、前事業年度末に比べ2億41百万円増加しました。

主な内容は、流動資産につきましては、売掛金及び棚卸資産等が増加したことなどにより2億81百万円増加し、固定資産につきましては、減価償却が進んだことなどにより40百万円減少したことによるものであります。

負債合計につきましては、28億41百万円となり、前事業年度末に比べ買掛金及び未払金等が増加し74百万円の増加となりました。

純資産合計につきましては、38億32百万円となり、前事業年度末に比べ利益剰余金が増加し、1億67百万円の増加となりました。

以上の結果、自己資本比率は、57.4%となりました。

(3) 業績予想など将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、平成25年11月1日に公表しました業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更）

従来、有形固定資産（建物およびリース資産を除く）の減価償却方法は定率法を採用しておりましたが、第1四半期会計期間より定額法に変更しております。

この変更は、第1四半期会計期間より親会社である日清オイリオグループ株式会社が有形固定資産の減価償却の方法を定額法へ統一することを契機に、当社の有形固定資産の使用状況の見直しを行った結果、有形固定資産の使用方法がより安定的なものへと変化していることが明らかになってきたことに対応するものであります。

この結果、従来の方法によった場合と比べ、当第3四半期累計期間の減価償却費は16百万円減少し、営業利益、経常利益及び税引前四半期純利益がそれぞれ15百万円増加しております。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成25年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	32	82
受取手形及び売掛金	2,366	2,547
有価証券	0	0
商品及び製品	216	240
原材料及び貯蔵品	105	137
短期貸付金	320	300
その他	66	80
流動資産合計	3,108	3,390
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	770	736
機械及び装置（純額）	172	155
土地	1,919	1,919
その他（純額）	172	182
有形固定資産合計	3,034	2,993
無形固定資産	34	19
投資その他の資産	255	271
固定資産合計	3,324	3,284
資産合計	6,433	6,674
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,424	1,562
未払金	655	700
未払法人税等	86	48
未払消費税等	26	23
引当金	61	30
その他	78	50
流動負債合計	2,332	2,415
固定負債		
退職給付引当金	341	359
役員退職慰労引当金	47	22
その他	45	44
固定負債合計	434	425
負債合計	2,767	2,841

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成25年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,299	1,299
資本剰余金	1,165	1,165
利益剰余金	1,172	1,329
自己株式	△6	△6
株主資本合計	3,630	3,786
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	35	46
評価・換算差額等合計	35	46
純資産合計	3,665	3,832
負債純資産合計	6,433	6,674

(2) 四半期損益計算書  
第3四半期累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	7,203	7,264
売上原価	6,164	6,203
売上総利益	1,038	1,061
販売費及び一般管理費	736	731
営業利益	302	329
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	4	4
仕入割引	2	2
受取地代家賃	2	1
その他	1	1
営業外収益合計	10	10
営業外費用		
支払利息	0	0
売上割引	0	0
その他	0	0
営業外費用合計	0	0
経常利益	312	339
特別損失		
固定資産除却損	0	0
投資有価証券評価損	3	—
特別損失合計	3	0
税引前四半期純利益	309	338
法人税、住民税及び事業税	120	115
法人税等調整額	10	17
法人税等合計	130	132
四半期純利益	178	205



(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)  
該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)  
該当事項はありません。

(セグメント情報等)  
【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他	合計
	油脂事業	化成品事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,591	3,318	6,909	294	7,203
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	3,591	3,318	6,909	294	7,203
セグメント利益	222	485	707	121	828

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれないセグメントであり、物流業務を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	707
「その他」の区分の利益	121
全社費用	△526
四半期損益計算書の営業利益	302

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

II 当第3四半期累計期間(自平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他	合計
	油脂事業	化成品事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,544	3,428	6,972	291	7,264
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	3,544	3,428	6,972	291	7,264
セグメント利益	216	514	730	114	844

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれないセグメントであり、物流業務を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	730
「その他」の区分の利益	114
全社費用	△515
四半期損益計算書の営業利益	329

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更に記載のとおり、従来、有形固定資産（建物およびリース資産を除く）の減価償却方法は定率法を採用しておりましたが、第1四半期会計期間より定額法に変更しております。

この変更は、第1四半期会計期間より親会社である日清オイリオグループ株式会社が有形固定資産の減価償却の方法を定額法へ統一することを契機に、当社の有形固定資産の使用状況の見直しを行った結果、有形固定資産の使用方法がより安定的なものへと変化していることが明らかになってきたことに対応するものであります。

この結果、従来の方法によった場合と比べ、当第3四半期累計期間のセグメント利益が、「油脂事業」で1百万円、「化成品事業」で12百万円、「その他」で0百万円それぞれ増加しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。